

令和元年度 第3回よっちゃんばれ放談会 要旨

日 時	令和2年2月19日（水）午後2時00分～午後4時00分
会 場	市役所4階本部長会議室
参 加 者	メディア関係者及び団体の代表者（6名）
市出席者	市長、市長室長、シティプロモーション課長、シティプロモーション課職員、市民部長、市民協働室長、協働推進課長、
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 参加者自己紹介 4 意見交換 5 まとめ 6 閉会
意見交換	
シティプロモーション課長	<p>本日の「よっちゃんばれ放談会」は、今年度の3回目として「シティプロモーションの充実」をテーマに各分野から、発信力のあります6名の方々にお集まりいただき、樋口市長と意見交換をしていただく機会とさせていただきます。</p> <p>はじめに、本日まで出席いただきました皆様から自己紹介をお願いします。</p> <p>はじめに、参加者Aさんをお願いします。</p>
参加者A	<p>私は、山梨市で生まれ育ち、甲府に移り住んで10年になります。</p> <p>市民レポーターを務めるかたわら、野菜ソムリエとしても活動しております。</p> <p>今日は、よろしくをお願いします。</p>
シティプロモーション課長	<p>続きまして、参加者Bさんをお願いします。</p>
参加者B	<p>私は、マスコミ関係の仕事をしておりまして、今まで徳島市や長崎市、福岡市で勤務しておりましたが、甲府市に転勤して1年8か月ほどになります。</p> <p>今日は、よろしくをお願いします。</p>

シティプロ モーション 課長	続きますして、参加者 C さんお願いします。
参加者 C	私は、富士吉田市で生まれ育ち、結婚を機に甲府に移り住みました。 小学校の教諭や甲府市の保育士として 20 年程勤めた後、現在はボラン ティア団体の代表として活動しています。 今日はよろしくお願いします。
シティプロ モーション 課長	続きますして、参加者 D さんお願いします。
参加者 D	私は、大分で生まれ育ち、現在新聞社に勤務しておりますが、甲府に住 んで 1 年 7 か月になります。 今日はよろしくお願いします。
シティプロ モーション 課長	続きますして、参加者 E さんお願いします。
参加者 E	私は広島で生まれ育ち、大阪に本社がある釣り具メーカーに勤務後、独 立して現在は自転車及びその関連商品の販売を手掛けています。 今日はよろしくお願いします。
シティプロ モーション 課長	続きますして、参加者 F さんお願いします。
参加者 F	私は、市内の大学に通う学生です。市の学生レポーターとして活動した 外、合同会社まちづくり甲府による「まちなかコーディネーター育成講座」 にも参加しました。 今日はよろしくお願いします。
シティプロ モーション 課長	それでは意見交換に入ります。最初のテーマは「シティプロモーション の必要性と重要な要素」についてです。 昨今、自治体におけるシティプロモーションの重要性が叫ばれていま すが、シティプロモーションの必要性と「コト・ヒト・モノ」などの重要な

<p>参加者 A</p>	<p>要素について、全員の皆様からそれぞれご意見をいただき、その後樋口市長よりコメントをいただきます。</p> <p>はじめに参加者 A さんお願いします。</p> <p>私は生まれ育ったのが山梨市ですが、当時から甲府市は憧れの街です。昨年中核市になった甲府市ですが、周辺地域への人口流出や中心市街地の空洞化、地域のつながりの希薄化など、問題は山積みだと思います。</p> <p>そういったことを解決していくためにもシティプロモーションは、必要であり、甲府の良さを市民の皆さんに知っていただく大切なものだと思います。</p> <p>また、シティプロモーションには、「コト・ヒト・モノ」が重要な要素だと言われていますが、具体的に「コト」は地域の伝統行事やイベント、「ヒト」は地域を良く知る人、「モノ」は「甲府之証」に代表される様な地域の特性を活かした特産品や加工品であると思います。</p>
<p>シティプロモーション課長</p>	<p>続きます、参加者 B さんお願いします。</p>
<p>参加者 B</p>	<p>シティプロモーションのターゲットを誰に向けるかが最も重要だと思います。対象が甲府市民なのか、市外に住む人たちへの魅力発信なのか、その両方なのか。</p> <p>また、視点をどこに持っていくかも重要だと思います。愛着を持ってもらうのか、魅力を知ってもらうのかなど様々ではないでしょうか。</p> <p>シティプロモーションの必要性という観点からすれば、この両方を兼ねるのではなく、それぞれに進めていくことが効果的だと思います。</p> <p>重要な要素という観点からすれば「知る、知ってもらう」ということがシティプロモーションの原点ではないかと思います。</p> <p>私も一昨年甲府に来るまでは、甲府のことは何も知らなかったですし、住んでみても知らないことはたくさんあります。</p> <p>住んでよかった、行ってよかったと思われるような PR をしていただきたいです。</p>
<p>シティプロモーション課長</p>	<p>続きます、参加者 C さんお願いします。</p>
<p>参加者 C</p>	<p>甲府市のことを知って、好きになり、そこから甲府市に対して愛着や誇</p>

<p>シティプロモーション課長</p>	<p>り、自信を持つ人が増えることで、甲府市が活性化したり、進化や発展に繋がっていくと思っていますので、そういった意味でもシティプロモーションは必要だと思います。</p> <p>また、その際の重要な要素としては、絶え間ない努力と継続だと思います。甲府市ならではの「コト・ヒト・モノ」を常に教えたり、伝えたりすることが大切で、具体的には開府 500 年の記念事業として実施した「ラーニングスピーチ」や「歴史探訪」は、甲府のことを知ってもらったり、好きになってもらったりするには、とても効果的な事業だと思いますので、継続して実施してもらいたいと思っています。</p> <p>続きまして、参加者 D さんお願いします。</p>
<p>参加者 D</p>	<p>余暇の過ごし方や生き方が多様化しているので、インバウンドによる交流人口の拡大や定住者を増やしていくためには民間だけではなく、行政によるシティプロモーション活動が不可欠ですし、発信するコンテンツと発信方法の両面で常により質の高いものが求められると思います。</p> <p>信玄公祭りに家族で参加したり、甲府にしかない土産物を購入したりするなど、関心を抱く方向性も多様化してきているので、新たな「感動」や「癒し」を与えるものでないと意味がないと思います。</p>
<p>シティプロモーション課長</p>	<p>続きまして、参加者 E さんお願いします。</p>
<p>参加者 E</p>	<p>経済成長ありきの発展は、今後難しいのではと思っていますが、閉塞感を引きずることなく、歴史や大自然など心の豊かさを感じることができる街を目指すプロモーション活動を展開していく必要があると思います。</p> <p>やるか、やらないかではなく、一歩踏み出すことが大事であり、それが日本一になる何かを見つけていくきっかけになるのではないかと思います。</p>
<p>シティプロモーション課長</p>	<p>最後に、参加者 F さんお願いします。</p>
<p>参加者 F</p>	<p>時代の流れとともに人々の「住む場所」の選択肢は広がりを見せていま</p>

	<p>す。市外からの移住者による人口増加が期待できる一方、市外への転居による人口流出が進む危険性も存在します。どちらに転ぶかは市内外の人々にどれだけ甲府市の魅力をアピールできるかにかかっています。</p> <p>したがって、自治体が主体となって市のブランドを高めていくことは現代の地方自治体の使命であると思います。</p> <p>甲府市には面白い「コト・ヒト・モノ」にあふれているにも関わらず、それらが点在していることにより、魅力のアピール不足、認知不足があるのではないかと思います。</p> <p>これらを結びつける「横のつながり・連携」がシティプロモーションの重要な要素ではないかと思います。</p>
<p>シティプロモーション課長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、樋口市長コメントをお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>本市は、360度山に囲まれた「山の都」でありまして、日本1・2・3位の高い山が見ることができます。</p> <p>また水が美味しいことから、農産物やお酒が美味しいです。</p> <p>ボトルドウォーター「甲府の水」は、モンドセレクションを受賞していることから本市では蛇口をひねれば、モンドセレクションの水が飲めるとPRしています。</p> <p>これからも、外への発信力を高めていくことは必要ですが、ターゲットを絞って紹介していくことはなかなか難しいので、本市の優れモノや、四季折々の祭事などを整理していきながら紹介していきたいと思っています。</p> <p>県民性なのかもしれませんが、郷土に対してネガティブな考え方や行動をとる方が多いので、そういった面を変えていくことが大切だと思います。</p>
<p>シティプロモーション課長</p>	<p>次の議題は、「さらなる郷土愛の醸成」についてです。市民の皆様が本市をもっと好きになるには、どのような取組が必要か、全員の皆様からご意見をいただきたいと思います。</p> <p>はじめに参加者Fさんお願いします。</p>
<p>参加者F</p>	<p>私は「市内大学ゼミナールとの連携によるまちづくり」が必要であると思います。</p> <p>大学生活を送る中で、地域やまちづくりに興味があるもののなかなか行動に移せない学生が多いことを実感しています。市内各大学のゼミと市が連携して、協働のまちづくりや地域おこしを進めていくことで学生達と市</p>

<p>シティプロ モーション 課長</p>	<p>の結びつきが生まれ、それが将来的に市内への就職、定住に繋がっていくのではないかと思います。</p> <p>また「芸術文化活動の水準を高める取組」も必要であると思っています。私は地域オペラ団体に参加しているのですが、参加してみて思うのは、活動を継続させることの困難さと若者の芸術文化活動への関心の薄さです。</p> <p>これらを解消するために、活動を行うことのできる場所の整備や資金面での助成の充実、また、若者が一流の芸術に触れることができる機会の提供などが必要ではないかと思います。</p> <p>市が主体となって、この問題に取り組んでいくことにより「市民が芸術文化活動のしやすいまち」という、甲府市の一つのブランド構築ができるのではないかと思います。</p> <p>続きまして、参加者 E さんお願いします。</p>
<p>参加者 E</p>	<p>まずは、市民の皆さんが希望を持てるような分かりやすい中長期的な政策をしっかりと示すべきで、「母になるなら流山市」というキャッチコピーで人口の増加に成功した流山市は良い例だと思います。</p> <p>二番煎じでも良いので、「他都市の政策を積極的に取り入れていくという取り組み」が必要だと思います。</p> <p>もう一つは、「自然と共存してきた強みを生かす取り組み」も必要だと思っています。</p> <p>東京近郊でありながら、富士山や八ヶ岳、南アルプス、秩父山地という大自然に囲まれた甲府盆地は、関東圏にはない魅力がいっぱいあります。</p> <p>サイクリングなどのアウトドアスポーツをしている方々は、この自然環境とそれをつなぐ道路の状態は、日本屈指だと思っていて、郷土愛はとても深いです。</p> <p>そこで市の政策として MaaS（次世代交通システム）やスマートシティ構想を取り入れれば、自然と共存してきた甲府の素晴らしさを、更に実感してもらえるのではないかと思います。</p>
<p>シティプロ モーション 課長</p> <p>参加者 D</p>	<p>続きまして、参加者 D さんお願いします。</p> <p>甲府市でしか味わえない幸福感、甲府市にいるからこそ強く感じられる</p>

<p>シティプロ モーション 課長</p>	<p>幸福感ということについて市民の皆さんに再認識してもらうことが必要だ と思います。</p> <p>そのための取り組みとしては、仕事で赴任してきた方や移住者とビジタ ーとの交流イベントを開催したら面白いと思っています。</p> <p>例えば、「我が家の自慢のほうとう」を出品して賞を争ったり、市内に あるワイナリーのハウスワインを味わってもらい結果を競ったり、市内の ジュエリーデザイナーにジュエリーを出品してもらい、赴任者たちに審査 してもらうといったことは面白いのではないのでしょうか。</p> <p>続きまして、参加者 C さんお願いします。</p>
<p>参加者 C</p>	<p>まず一つは、メリットや良さを常に「知らせる」ことだと思います。甲 府市を良くしようと頑張っている若者はたくさんいます。ただ個性が強く とんがっている若者が多いので、こういう人達をうまく結びつけて、点を 線にして面にするかにかかっているように思います。そのためには、足し 算だけでなく掛け算になる化学反応が起きる仕掛けが必要だと思います。</p> <p>もう一つは「検証」することだと思います。各部署で重複している事業 を削ぎ落とし、画期的な新規事業を創ること。従来からあるからと惰性でや り続けている事業を削ぎ落とし、これからの市に本当に必要な企画を立案す ることが大事なのではないのでしょうか。</p> <p>例えば甲府大好きまつりで、本当に甲府が大好きになったかを検証して みたらどうかとも思います。</p> <p>続きまして、参加者 B さんお願いします。</p>
<p>シティプロ モーション 課長</p> <p>参加者 B</p>	<p>市民が一体となれる場やイベント、行事が欲しいです。新しい伝統を市 民皆の手で作っていく環境づくりが必要なのだと思います。</p> <p>甲府市にも信玄公祭りがありますが、企業色が強く、主役も毎年タレン トでは、楽しみのある反面、市民の祭りという熱気にはつながらないよう に思います。</p> <p>私がこれまで勤務したところは、市民の皆さんが祭りを通して自分たち の市に誇りを持っていると思いました。</p> <p>例えば、徳島市であれば「阿波おどり」、長崎市であれば「長崎くんち」、</p>

<p>シティプロ モーション 課長</p>	<p>福岡市であれば「どんたく」などです。</p> <p>共通しているのは市民が主役であり、1年がその祭りに向かって回っていることです。一体感が生まれ全国にも誇れることがあると、自分の住む市を愛することにも繋がるのではないかと思います。</p> <p>また、今年は東京オリンピックで、甲府市もフランスのホストタウンになっており、県内のほかの自治体もフランスを中心にホストタウンになっていますが、残念ながら横の繋がりが欠けているように思います。市民にとっての“レガシー”を生むためにも、ぜひ甲府市が中心になって山梨県全体を盛り上げていくことも取り組んでいいのではないのでしょうか。</p> <p>もう一つは、防災・減災のまちづくり。安心して暮らせる甲府市であれば、ずっと暮らしたい「もっと好きになる」市になるのではないのでしょうか。そのための市民の意識を高める取り組みを牽引していくという取り組みもあっていいかと思います。</p> <p>最後に、参加者 A さんお願いします。</p>
<p>参加者 A</p>	<p>もっと甲府市のことを知ってもらえる取組を増やしてはいかがでしょうか。</p> <p>私は「甲府市×野菜ソムリエプロジェクト[こうふるふぁーむ]」の一員として、他メンバーと共に甲府の農産物を盛り上げる活動などを行っていますが、「食」に関することだけでも、市民が知らないことが多すぎて驚くことが多々あります。</p> <p>逆に移住者の方々が甲府の色々な良さを認識していると思うこともあります。</p> <p>あえて、こういった移住者の方々に「甲府の良さ」をPRしてもらうことも一つの方法ではないかと思います。</p> <p>これにより私たち地元民の知らなかった新たな良さの発掘ということにも繋がるのではないかと思います。</p> <p>甲府市の良さを知ることが、甲府市を「もっと好きになる」きっかけになると思います。</p>
<p>シティプロ モーション 課長</p> <p>市長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、樋口市長コメントをお願いします。</p> <p>市民の皆さんに甲府市をもっと好きになってもらうには、どのような取</p>

<p>シティプロモーション課長</p>	<p>組が必要かということですが、これは常に考えていかななくてはならないテーマだと思っています。</p> <p>開府500年記念事業は、市民の皆さんが参加、参画して知名度を広げてきたので、同じような取組により、市民の皆さんの背中を一押しして民間・市民・行政が一体となって取り組むことが重要だと思います。</p> <p>参加者Fさんもおっしゃっていましたが若い方への文化活動やスポーツ活動を奨励して、人材を発掘することも重要だと思います。</p> <p>流山市の取組に代表される先進事例を参考にして、本市なりにブラッシュアップする中で、施策に活かしていく手段を取りたいと考えています。</p> <p>3番目と4番目の議題につきましては、御3人ずつの皆様のご意見をいただきます。まず、「甲府市の魅力」についてです。他都市にはない、本市がプロモーションすべき一番の魅力について、ご意見をいただきたいと思います。</p> <p>はじめに、参加者Aさんお願いします。</p>
<p>参加者A</p>	<p>甲府市の魅力は「都会」と「田舎」が程よく共存しているところだと思います。甲府駅周辺は会社や飲食店も多く、都会のように感じる場所もあります。私が生まれ育った山梨市は、甲府市のようなオフィス街がなく羨ましいと思っていましたが、そこから少し移動することで自然に触れ合うこともでき、畑や田んぼなどの農産物を生産している場所もあります。</p> <p>また平成18年の中道・上九一色地区との合併により、農業に対してより強みを持つことができたのではないかと思います。</p> <p>農業体験やほうとうの手作り体験などが気軽にできる場所は、プロモーションすべき魅力の一つであると思います。</p>
<p>シティプロモーション課長</p>	<p>続きまして、参加者Bさんお願いします。</p>
<p>参加者B</p>	<p>何と言っても、身近に山の美しさが堪能できるというところだと思います。市役所の展望ロビーからでも楽しめる景色ですが、綺麗な青い山々を都心からわずか1時間半で楽しめるなんて、とてもお得感があると思います。都会の喧騒を忘れて、ちょっと気分転換を図るには最適なのではないでしょうか。</p> <p>また、近年注目されているテレワークをするなら甲府が最適であると考えますので、テレワークを推進している企業にターゲットを絞って、企業</p>

<p>シティプロ モーション 課長</p>	<p>誘致をすべきだと思います。 さらに交通が整えば、都会への通勤や通学も十分に可能だと思いますので、そこもアピールすべき魅力であると思います。</p> <p>続きまして、参加者 C さんお願いします。</p>
<p>参加者 C</p>	<p>自転車移動が可能な範囲に要所が集中していて、コンパクトにまとまっているところだと思います。私は、県内を駆け巡り活動をしていますが、他の市町に行かなくても市内で全てのことが完結できます。病院や警察など健康で安全に暮らせる機関や、図書館や美術館など趣味、余暇を楽しむ空間、公園やホールなどイベントや催し物を楽しめる場所などが集中してたくさんあり、他の地域に住む方々からうらやましがられています。私は東部・富士五湖地区から嫁いできましたが、甲府市に嫁ぐことをとてもうらやましがられました。今でも国中エリアに行くことを「甲府に行く！」と他の地域の方々は言います。</p> <p>それ程、県都甲府の名称が定着し、甲府市に暮らすことがうらやましがられていることを市民の皆さんが誇りに思うことが大切だと思います。</p> <p>また、働きやすい環境が整っているところも魅力だと思います。あらゆる条件での求人が多数あるため、男女、年齢問わず条件に合う職場を探しやすいところも大きな魅力の一つだと思います。</p>
<p>シティプロ モーション 課長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、樋口市長コメントをお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>本市は自然環境や地理的条件、居住環境が魅力だと思います。</p> <p>参加者 B さんもおっしゃっていましたが交通網を充実させていくことはとても大切で、中央線がさらに充実すれば、利便性が高まり魅力が高まると思っていますが、これからリニアの開業や新駅設置もあります。相模原までは 10 分ということで通勤圏としての需要も見込めますので、そこもアピールしていかななくてはと思っています。</p> <p>また市内にはワイナリーが 4 軒ありますが、ワインを扱う飲食店が多数あり、県内のワインと食事を楽しめる環境が整っているところも魅力だと思います。</p> <p>甲府の強みを出しながら、市域のみでなく境目を取り除いた圏域での PR に取り組んで、圏域が一緒になって人口の流出を止めていけるよう取り</p>

<p>シティプロモーション課長</p>	<p>組むことが大切だと考えています。</p> <p>次の議題は、「効果的なプロモーション」についてです。現在、世の中には、様々な情報発信ツールがあります。その中でも、皆様の考える一番効果的なツールや手法について、御3人の皆様からご意見をいただきたいと思ひます。</p> <p>はじめに、参加者 F さんお願いします。</p>
<p>参加者 F</p>	<p>最も効果的なツールはやはり SNS であると思ひます。私自身も甲府市の Instagram をよく拝見しております。</p> <p>また、甲府市ホームページに新着情報が掲載された際の Twitter や facebook による発信は、非常に有用なシステムだと感じており、私も利用させていただいております。</p> <p>紙媒体を通じた情報発信は、伝達できる範囲に限りがあるうえ、現代において情報収集を行う際、第一に手に取るのはスマートフォンや PC などの情報通信機器であると思ひます。</p> <p>SNS による情報発信の持つ拡散力、波及力はシティプロモーションを行ううえでもきわめて有効ではないかと思ひます。</p>
<p>シティプロモーション課長</p>	<p>続きまして、参加者 E さんお願いします。</p>
<p>参加者 E</p>	<p>中途半端ではどんな発信やプロモーションをしても、そこそこになってしまひます。何かで日本一を目指して動き出すべきでしょう。</p> <p>最近では電動自転車の性能も上がってきており、100km以上の走行が可能になっていひますので、例えばヨーロッパの「ユーロヴェロ」のような県内の歴史と自然を感じることができ、ナショナルルートを甲府市が率先して作っていただき、発信してもらえれば良いプロモーションになるのではと思ひていひます。</p>
<p>シティプロモーション課長</p>	<p>続きまして、参加者 D さんお願いします。</p>
<p>参加者 D</p>	<p>甲府市が注目を集めるためには、興味や関心に応える様々なコンテンツをホームページで効率的に整理しておきながら、SNS を活用していく方法が良いと思ひます。趣味で実践している人からアドバイスをもらひ、効果を測りながら、効果的な情報発信に取り組んで欲しいと思ひます。私も</p>

<p>シティプロ モーション 課長</p>	<p>facebook で情報発信や情報収集をしていますので、上手に使いこなしている県内の方を紹介できると思います。</p> <p>やまなし大使が 1,000 人ほどおりますが、山梨に住んだことのある人が「第 2 の故郷」として、関わりを持ってもらうこともプロモーションの一つであると思います。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、樋口市長コメントをお願いします。</p> <p>地域創生や地域活性化の成功法則として「よそ者、若者、馬鹿者論」が語られています。</p> <p>固定概念に囚われることなく、客観的に物事を考えることが必要だという考え方だと思いますが、私も職業柄様々な人にお会いする機会があり、甲府市外の方々から本市のユニークな一面をお聞きすることもあります。そういった意見などを参考にしつつ、積極的に情報発信していかななくてはと思っています。</p>
<p>シティプロ モーション 課長</p>	<p>最後の議題は、「ブランドメッセージ」についてです。全国的にも有名な流山市のブランドメッセージであります「母になるなら、流山市。」に負けない本市のブランドメッセージを作るとしたらどのようなものが考えられますか。併せて理由もお答えいただきたいと思います。こちらは全員の皆様にお伺いいたします。</p> <p>はじめに、参加者 A さんをお願いします。</p>
<p>参加者 A</p>	<p>「程よい田舎、甲府市」「気軽に帰れる故郷、甲府市」などはどうでしょうか。</p> <p>都内から片道 2 時間弱で来ることができる「田舎」であり、かといって交通手段に頭を悩ますほどの山奥でもありません。その程良い感じが、甲府の良さの 1 つであると思っています。甲府に実家がなくても、「故郷」のように思っただけのような街になって欲しいと思います。</p> <p>また、山梨はフルーツ大国ですが桃の生産量日本一ということは県外の方々に意外と知られていません。</p> <p>美味しいフルーツをもっと県外へ PR するべきだと思います。</p>
<p>シティプロ モーション</p>	<p>続きまして、参加者 B さんをお願いします。</p>

課長	
参加者 B	<p>私が考えたのは、「甲府市だと、ちょっと幸福（こうふ、く）」です。取り立てての魅力はないかもしれませんが、住んでみたら、遊びに来てみたらちょっとした幸せ感が味わえるようなまちだと思います。</p> <p>直接的に伝えるのではなく、曖昧なメッセージの方が想像力を掻き立てることができて、ちょっと甲府に遊びに行ってみようかなという気になるのではないのでしょうか。</p>
シティプロ モーション 課長	<p>続きまして、参加者 C さんお願いします。</p>
参加者 C	<p>「とっておきの歴史ある田舎街」、「求めればすぐそこにある!」、「気がつけば、ほら! 手の中に!」というのはどうでしょうか。</p> <p>甲府市は自然が豊かで美味しい水がいつでも飲める、また無尽に代表される様に人とのつながりや温泉、美味しいフルーツ、歴史や史跡などのほか、電車やバス、車などで東京に 90 分で行くことができるなど、コンパクトなまちということでこの様なフレーズを考えてみました。</p>
シティプロ モーション 課長	<p>続きまして、参加者 D さんお願いします。</p>
参加者 D	<p>「週末は山梨にいます」が、結構良いフレーズだと思いますので、それを超えるフレーズが欲しいのですが、そうは言ってもそれと親和性があるものが良いと思います。甲府は、ジュエリーやワイン、温泉、ほうとう、武田信玄など、山梨の魅力を十分に満喫できる場所だと思います。ちなみに社内で意見を聞いたところ、「甲府ってどこ?」というフレーズもありました。</p>
シティプロ モーション 課長	<p>続きまして、参加者 E さんお願いします。</p>
参加者 E	<p>方法論は流山市の二番煎じで全く問題ないと思います。真似できるところは徹底して真似する。流山市にはない日本屈指の自然があるわけですから、テレワークしやすい環境を整備しつつスマートシティ化を進め、自然</p>

<p>シティプロ モーション 課長</p>	<p>と一体となった「日本屈指の住みやすい街」「心の豊かさ日本一の街」を目指してはいかがでしょうか。</p> <p>自転車で県内を走っていると、不法投棄やごみの散乱が目に入ります。自然環境を保護する意味でも「ポイ捨て」の厳罰化や、ごみの集積場所の充実を、ご検討いただければと思います。</p> <p>続きまして、参加者Fさんお願いします。</p>
<p>参加者F</p>	<p>「こ・う・ふ」の3文字を頭文字に取って「こちよいまち、うみだせるまち、フィットするまち。」としてみました。</p> <p>「こちよい」というのは、首都圏との距離や気候などと言った地理的特性や、物価や地価などを考慮した住みやすさ、甲府城跡をはじめとする歴史ある風景と甲府駅前を中心に広がる現代的な町並みの共存などといった視点で考えてみました。</p> <p>先程も言いましたが、甲府市には高いエネルギーをもって地域のために面白い取り組みを仕掛ける人々がたくさんおり、何か新しいことを「生み出す」環境が整っているまちであるように感じます。「心地よさ」を求める人、何かを「生み出し」たい人、そのどちらのライフスタイルにも「フィットする」まちが甲府市である、というメッセージを込めました。</p>
<p>シティプロ モーション 課長</p>	<p>それでは、最後にまとめとして、樋口市長から本日の意見交換の感想をいただきたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>「シティプロモーションの充実」をテーマに皆様と意見交換をさせていただきました。</p> <p>やはり、本市の魅力は自然環境に恵まれ、都心に近いなど地理的条件が良く、居住環境も良いところであると思っています。</p> <p>本市は、北は八ヶ岳中信高原国立公園、秩父多摩甲斐国立公園、南は富士箱根伊豆国立公園、富士山は世界文化遺産、西は南アルプス国立公園、南アルプス連峰など日本一級の山々に囲まれているといったことや去年6月の「甲武信ユネスコエコパーク」の認定など、甲府市は都心から近いにも関わらず、自然環境に恵まれているところが他都市にはない本市の強みであり、ワインだけでなく日本酒も美味しく飲めるまちです。</p> <p>それに加え、参加者Cさんがおっしゃっていたコンパクトシティ、参加者Aさんがおっしゃっていた「都会」と「田舎」の共存など、こうした甲</p>

府の良さをどこに、どのようにアピールしていくかということは、常に考えていかなくてはならないテーマだと思っています。

これからはリニア、中央線と二本の動脈が通ることになりますので、都心の大きなエネルギーも呼び込んでいけたらとも思っています。

そのためには先程の繰り返しになってしまいますが、本市の強みを出しながらも、市域のみでなく境目を取り除いた圏域での PR に本市が率先して取り組んでいくことだと思います。

それが「県都こうふ」の使命であると思っています。

本日いただきました沢山の貴重なご意見や事前アンケートにつきましては、今後のシティプロモーションに活かしていきたいと思っています。

今後とも皆様のご指導、ご支援、ご協力いただきますことをお願い申し上げます。

本日は、誠にありがとうございました。